

2024(令和6)年度 事業報告(第1号事業)

一般財団法人ひふみ会(以下「当法人」という。)の2024年度は、「まちおかの中期計画“丘の上2030”」の4年目の深耕期として、経営計画では位置づけています。

そのために、2024年度は翌年以降の展開期にむけた方向性を定め、中長期的にたどり着きたい「丘の上」を明確にしていく一年とし、何を指すのか・何を実現するのか・どんな状態なのかをしっかりと共有することを目的に、組織の中の声を聴き、そこから声が出てくるような環境を作り、そして組織のメッセージを伝えていくために24年度の法人テーマを『声を聴く 声を出す 声を届ける』と定めて事業運営をしてきました。

以下、本事業について各号に従ってご報告させていただきます。

1 地域を支える医療機関としての医療機能の充実

本年度は、病棟担当の常勤医師2名と在宅診療医師1名の体制を維持し常勤医師と非常勤医師とで協力をしながら入院患者及び外来、在宅患者への医療提供をしてきました。

当院の医療機能の充実を目指して、下記の5項目を中心に機能強化を図ってまいりました。

- ① 年間平均病床稼働60床の達成
- ② 日当点19,500円の達成
- ③ 医療とケアの質の向上(慢性期医療協会のCI*を基にした機能評価など)
- ④ 訪問診療事業について
- ⑤ 外来部門について

*CI: クリニカル・インディケータ

以下、各点において報告をさせていただきます。

① 年間平均病床稼働60床の達成

年間平均病床稼働率は54.5床と、目標の60床には及ばない結果となりました。主な要因は、本年度6月に発生したクラスターによる影響と、一時的に看護職員をはじめとした人員の不足感などがあつたことで迅速な入院患者の受け入れが難しい状況であつたことが挙げられます。

一方、年度末にかけては入院件数が十分確保されるようになり、改善基調となっています。引き続き、目標の90%の達成を目指し、次年度も安定した病床稼働の実現に向けて改善を進めてまいります。

② 日当点19,500円の達成

1日あたりの入院日当点(食事代を含め)は、賃金改善でのベースアップ加算分を除いても20,402円/日と目標を達成しました(2024年年間平均)。2024年度6月に診療報酬改定があり、療養病棟での改定は非常に影響が大きかったものの重症度の高い患者数が改定前から増加

傾向であったことより、診療報酬改定後の点数にも大きく反映されました。

③ 医療とケアの質の向上(慢性期医療協会の CI*を基にした機能評価など)

医療の質の向上の取り組みとして、前年度同様に日本慢性期医療協会が公表するクリニカルインディケーターの「病棟臨床指標」の計測をしております。測定値では、経口摂取改善率や、褥瘡発生率においては高評価であるa評価に到達しました。一方、課題に挙げられた患者抑制率に関しては、抑制率の軽減を図る目的に委員会の発足に向けた協議を進め、次年度の立ち上げに目途が付きました。

また、本年度より病棟運営に関するチームを立ち上げ、医師を含む多職種が中心となり、病棟の課題改善に向けた取り組みを進めてきました。具体的には、コロナ禍に設定した家族との面会制限の緩和や、入院患者の病棟での生活状況を家族と共有する時間(リビング・ルーム)なども力を入れて行ってきました。

今後も更なる面会時間の拡大や、多職種カンファレンスの質向上、全ての職種が手掛けられる摂食や保清ケア活動の確立に向けた取り組みに関する協議を進めていきます。

④ 訪問診療事業について

訪問診療事業は、地域の高齢者や障害を有する方など通院困難な方々への医療提供を目的として展開しています。2023年7月に、家庭医療専門医1名が常勤医として、本年度には非常勤医師1名が着任しています。以降、利用者数は約50-60名に増加し、年間で7件の看取りにも対応しています。

当法人の訪問看護リハビリステーション、居宅介護支援事業所をはじめ、周辺の病院や施設、訪問看護ステーションとも連携を強化していく他、今後の計画は、来年度には常勤医師を更に1名採用し、更なるサービス拡充を目指します。

⑤ 外来部門について

外来部門では、内科、漢方、整形、リハビリテーション、予防医療(健康診断やワクチン)、高齢者のACPなどといった患者さんの人生の中のステージとそのニーズに合わせてサービス提供をしております。外来のKPIとしては、①お断りを減らす、②患者数を増やす(30人/日)、③外来満足度を高める、の3項目を設定しました。

KPI①に関してはお断り台帳を作成し経過を評価した結果、不必要なお断りの受診はほとんどないことが判明しました。KPI②の外来患者数増加に関しては、「診察の幅の向上」と「認知度の向上」の2つの側面から対応しました。診察の幅の向上に関しては、検査の充実を行い、可能な限り多くの患者を診療するように対応しました。広報に関しては、健康診断のパンフレットを作成、配布、ホームページ上の工夫などで患者の集客を促す対応を試みました。

結果的に1日平均外来患者数は24人と目標の30人には到達できませんでしたが、前年度より比較すると患者数が増加しました。KPI③の外来患者の満足度調査に関しては対応することができず、次年度への持ち越しとなりました。

2 院内環境の改善

今期は、引き続き働きがいのある職場作りを目指し、院内環境の改善に取り組んでまいりました。

(1)ハード面での環境改善

- ① 入院の電子カルテの導入推進
- ② セントラルモニタの増台およびナースコール連携
- ③ 第1病棟各部屋へのロスナイ設置
- ④ 感染対策においてHEPA フィルター付空気清浄機設置
- ⑤ 機械浴入替え

(2)ソフト面での環境改善

- ① 給与計算・経理関係のIT化
- ② 福利厚生改善
- ③ 時間有給休暇
- ④ 給与明細のWEB化
- ⑤ 人事労務システムソフト導入推進

3 その他各委員会やプロジェクトに関して

(1) 各種委員会の実施

- ① 栄養管理委員会（毎月1回、年間12回）
- ② 院内感染対策委員会（毎月1回、年間12回）
- ③ 褥瘡対策委員会（毎月1回、年間12回）
- ④ 医療安全管理委員会（毎月1回、年間12回）
- ⑤ 医療ガス・医療機器安全管理委員会（年1回）
- ⑥ 個人情報保護対策委員会（年1回）
- ⑦ 診療録管理体制委員会（隔月1回 年間6回）
- ⑧ コーディング委員会（年4回）
- ⑨ 高齢者虐待防止、接遇委員会（毎月1回、年間12回）

(2) 安全管理のための職員研修会の実施

- ① 医療安全管理研修（7月・3月）
- ② 院内感染対策研修（9月・3月）
- ③ 医薬品安全使用研修（5月・11月）
- ④ 医療機器安全管理研修（随時）
- ⑤ 個人情報保護研修（6月）

(3) 防火・防災訓練の実施

- ① 基礎訓練(院内の設備・器具の操作など)
- ② 消防署の参加協力による防火・防災訓練(消火器使用訓練) 11月
- ③ 夜間体制時における防火訓練 6月

4 年間行事

行事については、昨年度とは異なり院内でのイベントだけでなく院外、町内会等の催し事等も開催されており、院内においても通年開催しているイベントだけでなく、入院患者さんに初詣をしてもらいたく神社を模様したり絵馬を書いてもらい奉納を行いました。また、院外では近隣の町内会の夏祭りも再開され町内会との連携をして取り組むことができました。

(1) 院内行事

- ① 花見会・バザー 4月
- ② 七夕会 7月
- ③ 納涼会 8月
- ④ クリスマス会 12月
- ⑤ 一二三神社での初詣 1月

(2) 院外行事

- ① 小野路町内会夏祭り 7月
- ② 野津田町内会夏祭り 8月
- ③ 他施設の行事参加

以上

2024(令和6)年度 事業報告(第2号事業)

今年度も、当院内(8号室・13号室・10号室)において、東京都からの受託事業である重症心身障害児(者)介護施設「一二三学園」(以下「学園」)という。)を運営しました。

「まちだ丘の上病院」としての歩みは7年目となり、「あなたらしい『生き方』を大切にする丘の上」と未来を見据えたビジョンを決め、5年計画を立てて歩んでいます。今年はその4年目となりました。1年目よりテーマを定め、そのテーマを意識しながら歩んできました。

第2号事業は障害福祉部門となり、一二三学園事業と障害者総合支援法に基づく事業(短期入所事業・相談事業、医ケア児日中預かり事業)について目標を立て事業を行ってまいりました。

以下それぞれの事業に沿って説明をしてまいります。

1 総合支援法に基づいた事業

(1) 空床利用の短期入所事業について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響も多少ありましたが、昨年の5月より通常通りの受け入れが出来るようになりました。東京都からのベッド確保は、都に実績を示し来年度の4月より1床増え5床となりました(1日1床の確保料4,800円)。

また、他部署の協力を得て、医療ケア児(者)の受け入れも増加してきています。この重度者の受け入れ実績が10,2%以上となり、今年度より重度者受け入れ加算が取得できるようになりました。年間通した稼働は、1日あたり平均3.78床でした(目標4床)。

昨年度から送迎などの試験運用を行い、今年度から送迎にも対応できるようになりました。また、日中活動の充実と相談支援事業所との連携をとることで、日中活動支援加算を取得できるようになりました。

現在、東京都の政策としても、障害児者の短期入所事業を増やしたい方針で、当院の入所事業はモデルケースとして評価をいただき昨年度より、東京都が行う医療型短期入所開設講習の講師と見学施設を実施しています。

(2) 相談支援事業

障害を持つ児童や保護者からの要請により、障害福祉サービスの計画作成を行う事業「ひふみ相談支援事業所」を昨年6月に開設しました。開設経緯としては、当院を利用する短期入所の保護者から相談事業所が少なく困っているという声や、特別支援学校からの依頼などが背景としてあります。短期入所の利用者数名も対応しており、既存の他の障害福祉部門の事業との親和性もある見込みです。

現在、相談依頼要望は多くあり、今年度は3名の相談員で対応していたが、次年度も引き続き3名の相談員で対応する予定です。

(3) 医療的ケア児の日中預かり事業

東京都が昨年度10月より始めた新規事業で、まだ 2 か所しかないモデル事業として、当法人でも新しく取り組むことになりました。目的は医療的ケア児(医療スコア16点未満)児を抱えていて働くことが出来ない保護者の就労支援で、医ケア児(18歳未満)を日中預かる事業となります。

新しい事業でもあり、まだ認知度が低く実績は作れませんでした。次年度以降はさらに広報にも力を入れ、受け入れに向けて取り組んでいきます。

2 学園事業全般について

(1) 今年度について

障害福祉部門として、今年度のテーマ「声を聴く 声を出す 声を届ける」を意識しながら歩んだ1年となりました。また、新たに障害福祉部門のスローガン「50年先の『一二三学園』をつくる1年」を作成しました。

学園生の減少(定員15名のところ現員10名)を受け、学園の今後の進む方向を定めていかなければならないタイミングでもあり、今年度は、部門内での検討および学園性の保護者も含めた協議などを昨年に続き重ねて行ってまいりました。以下、詳細についてご報告します。

(2) 学園の収支状況

学園は定員15名に対して、現在は10名で運営しています。学園の収入は東京都からの委託料が主であり、今年度の1人当たりの1か月単価は 472,343 円となりました。空床の5床は、短期入所事業のベッドとして受け入れを行い、学園の職員が中心となり対応しています。

それでも、部門としては収支が合わず、最終的には他会計の第1号事業より繰り入れを行い、収支を合わせております。

(3) 支援の充実化

学園生は長年の入所となり、平均年齢が60歳になりました。加齢による身体機能の変化と特に嚥下機能の衰えが目立つようになりましたが、週1回の医師の回診できめ細かく状態を診ることで、大きな病気はなく経過できました。

支援をするにあたり、職員体制の充実は基礎となります。昨年に続き年度半ばに病気療養のための休職者が出たことに加え、長く勤務していた職員の退職なども重なり、1年を通して厳しい体制となっていました。1月から3月に新たに4名の新人職員を迎えることができ、新たな体制を整えて新年度を迎えることが出来ました。また、厳しい体制ながら看護スタッフやリハビリスタッフ含め多職種の協力により学園生全員で遠足を実施することが出来ました。

(4) 学園のリスク管理対策

新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたものの、引きつづき院内感染委員会で状況把握や対応を検討したものを共有し、日々の感染予防に努めています。

医療安全については、小さな気づきを大切にヒヤリ・ハットレポートを活用し、大きな事故発生につながらないように努めています。安全のため、介助方法の検討(移動時の二人介助の徹底)

も実施しました。また、権利擁護について職員会議の中で「虐待防止」研修を行いました。

3 年間行事

(1) 通年行事

- ・面会(オンライン含む)
- ・誕生会(該当月)
- ・実習生受け入れ(9月に2人受け入れ)
- ・避難訓練
- ・ボランティア受け入れ(中止)

(2) 各月の行事

- 4月 ピクニック
- 5月 端午の節句・個別外出
- 6月 個別外出(中止)
- 7月 七夕・オヤツバイキング
- 8月 納涼会(病棟と合同)
- 9月 音楽パーティー(中止)
- 10月 ハロウィン・音楽パーティー・遠足
- 11月 おやつバイキング
- 12月 クリスマス会(病棟と合同)
- 1月 元旦食事会・フィンガーペイント
- 2月 節分・パンバイキング
- 3月 ひな祭り・年度末食事会・記念会

以上

2024(令和6)年度 事業報告(第3号事業)

当法人では、2020年10月より開始したメディカル・ヴィレッジ事業を、昨年度より「在宅・地域部門」に改称し、5期目となりました。

当部門は医療・介護サービスを提供する事業と飲食事業およびコミュニティ事業を運営する、2つの事業から成り立っています。

医療・介護サービスにおいては、本年度は以前より地域からの需要が高い、居宅介護支援事業所を開設し新たにサービスをスタートしました。新たな事業の拡大により、地域の方々の健康に関する要望にこれまで以上に応えることができるようになりました。

コミュニティ事業では、「人と『つながる場』」、「力を『生かす仕組み』」、「学びを『育む環境』」を提供することをビジョンとして掲げ、前年度と同様に、ヨリドコ小野路宿に関わる方々に「あるといいながあるところ。」と感じていただけるよう事業運営を行ってまいりました。

以下、各号に従い詳細をご報告いたします。

1 在宅・地域部門の事業概要

当事業が担う事業は①訪問診療(収支は1号事業に包含)、②訪問看護リハビリステーション、③居宅介護支援事業所、④飲食事業、⑤コミュニティ事業の5つに分類されます。

① 訪問診療

2023年6月より、医療保険を用いた在宅療養する患者・利用者への訪問診療を提供しています。

② 訪問看護ステーション

「訪問看護リハビリステーションヨリドコ」という施設名で、2020年10月より、主に介護保険および医療保険を用いた在宅療養する患者・利用者への訪問看護およびリハビリサービスを提供しています。

③ 居宅介護支援事業所

「ココ・ヨリドコ」という事業所名で、ケアプラン作成や地域の人々の様々な医療や健康の相談に乗るための事業を、2024年9月から開始しております。

④ 飲食事業

「kitchenとまりぎ」という施設名で、ランチタイムおよびティータイムをメインとした営業を、2021年1月から開始しております。

⑤ コミュニティ事業

集会所、蔵、和室(母屋)、裏山およびガーデンのスペースレンタル事業を始め、イベントやワークショップなどを企画・提供する事業を行っております。

2 訪問診療

(1) 事業概況

訪問診療事業は、地域の高齢者や通院困難な方々への医療提供を目的として展開しています。2023年6月に家庭医療専門の常勤医が着任し、着任以降、利用者数は約50名に増加しました。また、年間で7件の看取りにも対応しています。自法人の訪問看護リハビリステーションをはじめ、周辺の病院や施設、訪問看護ステーションとも連携を強化しています。

(2) 今後の計画

来年度には医師を更に1名採用し、更なるサービス拡充を目指します。地域のニーズに応え、訪問診療の需要に対応する体制を強化します。また、周辺施設との連携を密にし、看取り患者への対応をさらに進めていくことを目指します。母体である病院とも連携を強化し、入退院をシームレスに行える体制を目指します。

3 訪問看護リハビリステーション

(1) 事業概況

訪問看護リハビリステーションは5期目を迎え、更に常勤看護師を新たに採用し、少しずつ拡大しております。毎月の新規利用者相談は約3-5件で、事業は安定的に成長を遂げています。

本年度から開始した居宅介護支援事業所とも連携し、訪問診療・訪問看護・居宅介護事業所が連携して、地域で暮らす人々のケアを提供しています。

(2) 今後の計画

次年度は看護師2名、リハビリスタッフ1名の追加採用を予定しています。また、訪問件数としては、看護師1日当たりの訪問件数を5件、訪問リハビリ1日当たりの訪問件数を6.5件とし、目標達成に向けて利用者獲得に注力します。

4 居宅介護支援事業所

(1) 事業概況

居宅介護支援事業所は、2024年9月に3名体制で新規に開設、営業を開始しました。背景としては、地域の暮らしを支える介護や医療をつなぐための相談機能を充実化させることが、当会全体のサービスの水準を底上げし、シームレスなサービス提供につながると考えたことです。

当初計画通り、順調に利用者数を伸ばし、80名以上の方に利用していただいております。

(2) 今後の計画

来期の計画としては、①利用者の増加、②収益改善、などを挙げ、1名のさらなるケア・マネージャーの採用を行い、特定事業所加算2の取得なども目指してまいります。

5 飲食事業

(1) 事業概況

飲食事業を担う kitchen とまりぎでは、本年度 1 月で現在のメインの店主による営業が終了し、その後は主に3つのカフェがそれぞれ日替わりで運営されています。引き続き安定して営業し、地域の人々の「止まり木」となることを目指していきます。

さらに、2 月より、毎週金曜日をテーマカフェとして、様々なテーマとコラボレーションしたカフェなども行い、医療や福祉などが、地域の人々に近づくための取り組みを行っております。週 1 回の夜間営業も継続し行っており、地域との新たな繋がりが生まれる場として定着してきました。

(2) 今後の計画

来期の計画としては、引き続き継続的に営業し、人と人をつないでいくための場として継続性を重視しながら、営業を続けてまいります。なお、収支は直営の営業を極力なくし、場所貸しの日替わり店舗営業とすることで、支出を削減し、今期は黒字化を見込んでいます。

6 コミュニティ事業

(1) 事業概況

昨年度に引き続きコミュニティ事業に専属職員を 1 名配置し、年間を通して、地域イベント、勉強会等を数多くのイベントなどが開催されるような運営を行ってきました。特に、地域の方々が自主的に行うイベントの数が多く行われるようになり、コミュニティスペースの稼働率は引き続き高い水準で推移しています。

年間を通じて、昨年に引き続き約 11,000 人の利用者が訪れる場に育ってきております。

(2) 今後の計画

来季の計画としては、①コミュニティの深耕、②運営の成果などの見える化、などを旨とするともに③コミュニティ部門としての採算改善なども目指します。

さらに、事業としての成果を見える化しながら、ヨリドコとして行政などと連携して活動していくような取り組みも意識し、運営してまいります。

7 年間行事

2024 年度のヨリドコ小野路宿での公式な行事は、7 月に小野路町内会の盆踊りを共催として開催したほか、定期的なメンテナンスデーを実施いたしました。そのほかは、ヨリドコ小野路宿では、日々様々な団体による行事が開催されております。

以上